

寄贈図書リスト

Neutron Stars and pulsars

N. Shibazaki, N. Kawai, S. Shibata, T. Kifune, A5, 564p, 12,000 円, Universal Academy Press, Inc 専門書

驚異の宇宙

山岡 均著, アストロアーツ編, CD-ROM, 4,200 円, アスキー出版局, ハッブル宇宙望遠鏡画像集

Astrophysical Techniques

C R Kitchin, A5, 474p, £ 19.95, Institute of Physics P B P, 専門書

新版 遠州天文発掘行

浜松スペースハンタークラブ, B5, 160p, 1,600 円, 浜松スペースハンタークラブ (自費出版), 研究資料

火星に生命はいるか

大島泰郎, 新書版, 125p, 1,000 円, 岩波書店, 読み物

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月号発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。e-mail で gpjimu@tenmon.or.jp 宛, 必ず Fax: 0422-31-5487 へも原稿をお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

国立天文台教官公募

1. 教授 1 名
2. (1) 地球回転研究系
(2) 東京都三鷹市 (主たる勤務地)
3. VLBI 天文学
4. 地球回転研究系は, 国立天文台第二期整備計画において電波天文学研究系の VLBI 関連部門と融合し, 電波計測研究系 (仮称) として VLBI 計測を軸にした電波天文学と地球惑星科学の研究を展望しています。現在は, 地球力学分野の VLBI 研究を実施しつつ, 電波天文学研究系等とともに, VERA, RISE 計画を推進し, また, VSOP 計画に協力をしています。

今回の公募では, 機器開発を軸に VERA 計画を指導的に推進し, それによる観測的研究を意欲的にリード

する教授を求めます。さらに, 次期スペース VLBI などの将来計画をにらんで当該分野の発展を図り, ひいては広く電波天文学全体に寄与する人材を希望します。

注 VERA: VLBI Exploration of Radio Astrometry

RISE: Research In SElenodesy

VSOP: VLBI Space Observatory Programme

5. 決定後できるだけ早い時期
6. 大学院博士課程終了, 又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類
8. 平成 10 年 8 月 10 日 (月) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
(2) 〒 023-0861 岩手県水沢市星が丘町 2-12
地球回転研究系主幹 横山紘一
TEL: 0197-22-7132, FAX: 0197-22-7116
10. 封筒に「VLBI 天文学教授人事応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

1. 教授 1 名
2. (1) 電波天文学研究系
(2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. 電波天文学 (太陽電波)
4. 電波天文学研究系の太陽電波分野では, 電波ヘリオグラフによる太陽電波の観測的研究と世界的規模でのデータの共同利用の推進を行うとともに, 「ようこう」衛星による太陽 X 線の観測的研究も行っています。また次期太陽観測衛星 SOLAR-B 計画推進の一翼を担うとともに, 宇宙電波分野と協力して将来計画としての LMSA (大型ミリ波サブミリ波干渉計) 計画立案にも参画しています。当該分野を統括しつつ, 電波ヘリ

オグラフ及び「ようこう」による観測的研究並びに上記将来計画をも睨んだ観測装置の開発研究を指導的に推進する教授を求めます。

5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程終了, 又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類

8. 平成10年8月10日(月)必着

9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 小平桂一

- (2) 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山

電波天文学研究系主幹 中井直正

TEL: 0267-98-4392 E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp

10. 封筒の表に「電波天文学教授人事応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい. 選考は国立天文台運営協議委員会において行います.

1. 助教授1名, 助手2名
2. (1) 電波天文学研究系
(2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. A. サブミリ波天文学分野 (助教授1名, 助手1名)
B. 宇宙電波天文学分野 (助手1名)
4. A. 日本の天文学の次期大型計画である LMSA (大型ミリ波サブミリ波干渉計) 計画を展望しつつ, サブミリ波天文学の技術開発と観測的研究を指導的に進める助教授および新しい分野を切り開く意欲的な助手,
B. 4.5 m 鏡, ミリ波干渉計および関連する既存の装置のグレードアップを通じて新しい観測的研究を意欲的に進める助手, を求めます.

5. 着任時期: 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程終了, またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書. 助手の場合は応募分野を明記すること. この場合, 2つの分野両方に応募する場合はそれぞれについての研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類

8. 平成10年8月10日(月)必着

9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 小平桂一

- (2) 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山

電波天文学研究系主幹 中井直正

TEL: 0267-98-4392 E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp

10. 封筒の表に「電波天文学助教授 (または助手) 人事応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい. 選考は国立天文台運営協議委員会において行います.

1. 助教授2名
2. (1) 光学赤外線天文学・観測システム研究系
(2) 東京都三鷹市 (将来ハワイ観測所もありうる)
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
すばる望遠鏡の立ち上げ, 試験観測から共同利用観測の確立にいたるプロジェクトを積極的に支援するとともに, すばる望遠鏡を用いた観測的研究や開発研究をすすめ, 若手研究者や大学院生を指導して, すばる望遠鏡による研究を中核となって進め, すばるの初期成果を導く助教授を求めます.

5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程終了, またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類

8. 締切: 1998年8月10日(月)必着

9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 小平桂一

- (2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

光学赤外線天文学・観測システム研究系主幹

安藤裕康 TEL: 0422-34-3601

10. 封筒の表に「光学赤外助教授人事応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は, 簡易書留でお送り下さい. 選考は国立天文台運営協議委員会において行い, 外国籍の人の場合は法令に基づき任期を定める場合があります.

1. 助手1名
2. (1) 理論天文学研究系
(2) 東京都三鷹市
3. 理論天文学
4. 全国の理論研究者との連携を保ちつつ, 観測天文学を視野に入れて, 理論天文学を推進する若手研究者を求めます.
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程終了, 又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書(顔写真添付), (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担

を記すこと)および主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項 (1) ~ (5) の概要がわかる書類

8. 平成10年8月10日(月)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
- (2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台理論天文学研究系主幹 岡本 功
TEL: 0422-34-3828, FAX: 0422-34-3746
E-mail: okamoto@yso.mtk.nao.ac.jp
10. 封筒に「理論応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

宇宙科学研究所助手

1. 助手1名
2. (1) 宇宙科学企画情報解析センター, (2) 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
3. 太陽物理学, 天体プラズマ物理学. 太陽観測衛星「ようこう」のサイエンスデータベースの構築を進めるとともに, 次期太陽観測衛星「SOLAR-B」計画において積極的な役割を果たせる方。また, 大学共同利用機関である本研究所の職務を理解し共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただける方を希望する。なお, 宇宙科学企画情報解析センターは本研究所の計算機, ネットワーク, 科学衛星データベース関連の研究および運用業務を遂行しています。
5. 決定後, なるべく早い時期に着任されることを希望します。
6. 修士課程修了または同等以上の研究能力を有する者
7. (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リスト, および主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 他薦の場合: 推薦書2通。自薦の場合: 本人について意見を述べられる方2名の氏名及び連絡先。
8. 平成10年7月31日(金)必着
9. (1) 宇宙科学研究所 庶務課人事係
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
TEL: 0427-59-8010
- (2) 問い合わせ先
宇宙科学企画情報解析センター長 向井利典
TEL: 0427-59-8164 FAX: 0427-59-8456
E-mail: mukai@stp.isas.ac.jp
10. 封筒の表に「宇宙科学企画情報解析センター助手応募(推薦)書類在中」と朱書し, 郵送の場合は書留とする。

東京大学 大学院理学系研究科 天文学専攻

1. 助教授1名
2. 東京大学 大学院理学系研究科 天文学専攻
3. 天文学(理論)
5. (1) 1999年4月1日
7. (1) 履歴書, (2) 研究歴, 研究業績の概要, (3) 業績リスト, (4) 研究計画, (5) 主要論文別刷(3編), (6) 応募者に関する御意見をいただける方2名の氏名と連絡先
8. 1998年9月1日(火)必着
9. (1) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科天文学専攻
専攻長 野本 憲一

京都大学大学院理学研究科附属天文台教官

1. 教授 1名
2. (1) 京都大学大学院理学研究科附属天文台
(2) 岐阜県吉城郡上宝村蔵柱 飛騨天文台又は,
京都市山科区北花山大峰町 花山天文台
3. 天体物理学
4. 当天文台では, 飛騨天文台のドームレス太陽望遠鏡による観測を中心とした太陽物理学の教育研究を, 現在, 最重要課題の一つとして推進しています。
このプロジェクトに強く貢献するとともに, そこで得られた研究成果を恒星銀河活動の研究にも適用して, 太陽宇宙磁気プラズマの比較研究教育に, 指導的且つ開拓的役割を果たせる方を求めています。
5. 決定後, なるべく早い時期
7. (1) 略歴書, (2) 研究成果説明書(これまでの研究成果の概要を説明したものに, 研究論文リストと主要論文別刷を添付すること), (3) 研究計画書
8. 平成10年7月31日(木)必着
9. 〒607-8471 京都市山科区北花山大峰町
京都大学大学院理学研究科附属天文台 黒河 宏企
TEL: 075-581-1235
FAX: 075-593-9617
10. 封筒の表に「応募書類在中」と朱書し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。

平成 11 年度国立天文台外国人客員教授候補者の推薦について

下記により平成 11 年度国立天文台外国人客員教授について、国内公募を行います。

1. 国立天文台所属の受入れ責任者を通じての応募に限ります。
2. 平成 11 年 4 月以降に招へいをしようとする者を対象とします。(招へい期間については、3 ヶ月以上 1 年以内となります。)
3. 公募分野は、以下の 4 部門です。
 - (1) 光学赤外線観測 (光学赤外線天文学・観測システム研究系)
 - (2) 天体物理基礎理論 (理論天文学研究系)
 - (3) 電波天文観測 (電波天文学研究系)
 - (4) 地球力学 (地球回転研究系)
4. 推薦される候補者がある場合は、国立天文台所属の受入れ責任者とご相談の上、所定の申請書を作成し、関連資料 (略歴等・論文リスト等) を添えて、ご提出ください。

公募締切：平成 10 年 8 月 31 日 (月) 必着

提出先及び問い合わせ先：

〒181-8588 東京都三鷹市 2-21-1
 国立天文台管理部庶務課共同利用係
 TEL: 0422-34-3660
 国立天文台長 小平桂一

平成 11 年度国立天文台外国人研究員 (COE 分) 候補者の推薦について

下記により平成 11 年度国立天文台外国人研究員 (COE 分) について、国内公募を行います。

1. 国立天文台所属の受入れ責任者を通じての応募に限ります。
2. 平成 11 年 4 月以降に招へいをしようとする者を対象とします。(招へい期間については、3 ヶ月以上 1 年以内となります。)
3. 推薦される候補者がある場合は、国立天文台所属の受入れ責任者とご相談の上、所定の申請書を作成し、関連資料 (略歴等・論文リスト等) を添えて、ご提出ください。

公募締切：平成 10 年 8 月 31 日 (月) 必着

提出先及び問い合わせ先：

〒181-8588 東京都三鷹市 2-21-1
 国立天文台管理部庶務課共同利用係
 TEL: 0422-34-3660
 国立天文台長 小平桂一

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

筑波大学 計算物理学研究センター COE 研究員

1. 第 91 巻 2 号
2. 菊地信弘 (国立天文台研究員)
3. 1998 年 4 月 1 日

京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室教官

1. 第 90 巻 10 号
2. 大谷 浩 (京大理学研究科・助教授)
3. 1998 年 4 月 1 日

名古屋大学太陽地球環境研究所 COE 研究員

1. 第 91 巻 3 号
2. 河野光彦 (科学技術振興事業団研究員)
3. 1998 年 5 月 1 日

研究助成

第 6 回日産科学賞候補者推薦について

上記の推薦依頼が天文学会にきておりますのでお知らせ致します。

日産科学賞候補者推薦要領

1. 趣旨
若手・中堅の研究者で、特に顕著な業績にたいして表彰し、励ましと研究の発展を期待して支援をする。
2. 推薦基準
自然科学分野 (人文・社会科学分野との複合領域を含む) で、下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした満 50 歳未満 (平成 11 年 3 月時点) の公的研究機関に所属する研究者とします。
 - a) 学術研究上重要な発見をした
 - b) 新しい研究分野を開拓した

※ 45 歳以下で上記基準に該当する方がおられる場合は、優先的にご配慮願います。
3. 推薦者：貴学協会の代表者
4. 推薦依頼数：1 名

5. 賞の内容：正賞……賞状，メダル
副賞……研究奨励金 500 万円（受賞者の研究のための助成金）
6. 発表：平成 11 年 2 月
7. 推薦手続：所定の用紙に必要事項を記入し，天文学会に提出して下さい。（用紙は天文学会に用意してあります）
8. 学会締切：平成 10 年 8 月 5 日（水）
9. 問い合わせ：日本天文学会事務局

第 12 回日本 IBM 科学賞について

日本天文学会に標記の案内がきております。その概要をお知らせします。推薦書類は天文学会事務局にありますからお申し出下さい。応募締切は 8 月 15 日（土）必着となっています。

名称：日本 IBM 科学賞

目的：わが国における基礎研究の振興と若手研究者の育成

候補者資格：

- 1) 国内の大学あるいは公的研究機関に所属し，その研究活動の分野が，つぎのような領域に該当する基礎研究者（国籍は問わない）

- (1) 物理
- (2) 化学
- (3) コンピューターサイエンス
- (4) エレクトロニクス

- 2) 平成 9 年 8 月 15 日現在満 45 歳以下であること

受賞人数：6 名（6 件）

推薦方法：国内の大学あるいは公的研究機関等に所属されている方の推薦

選考：審査委員会により決定する

賞金：300 万円（1 件）

発表：推薦者を通じて通知（10 月上旬予定）

遠鏡を用いて観測実習を行います。参加してみませんか。特に専門知識は必要ありませんが，大学で物理実験を経験していることが望ましいです。

- 開催日程：平成 10 年 8 月 4 日（火）午後～7 日（金）午前（3 泊 4 日）JR 小海線野辺山駅集合，解散

- 場所：国立天文台野辺山宇宙電波観測所

- 定員：12 名程度

- 対象：大学の理科系学部（教育学部の理科系も含む）に属する学生

- 費用：旅費・滞在費は自己負担（滞在費は 3 泊 4 日で 5000 円程度）。

- 応募方法：住所，氏名，所属大学及び学部・学科，学年，年齢，性別，電話番号を明記の上，以下の (1)～(3) に回答し，7 月 6 日（月）必着で下記の応募先まで送付。

- (1) 大学で物理実験の経験がありますか？
- (2) (1) ではいと回答された場合，一番印象に残った実験は何ですか？
- (3) 実習に参加希望の理由は何ですか？（600 字以内）
なお，送付された資料は返送しません。

- 選考結果の発表：7 月 10 日発送

- お問い合わせ先・応募先：

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2
国立天文台野辺山宇宙電波観測所 「観測実習」係
TEL: 0267-98-4311

なお，封筒に「電波観測実習応募書類在中」と朱書きすること。

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では，現在，以下の観測プログラムの公募を行っております。詳しくはホームページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/>) をご覧下さい。

〈野辺山 45 m 鏡 及び VLBI 国内ネット〉

第 XVII 期共同利用（98 年 11 月～99 年 5 月）観測

- ・前期共同利用 締め切り：98 年 6 月 5 日（金）JST15 時*
- ・後期共同利用 締め切り：98 年 10 月 23 日（金）JST15 時
- ・長期共同利用 締め切り：98 年 6 月 5 日（金）JST15 時*
- ・Short Program 1 次締め切り：98 年 11 月 13 日（金）JST15 時
- ・Short Program 2 次締め切り：99 年 1 月 29 日（金）JST15 時

〈野辺山ミリ波干渉計〉

第 XII 期共同利用（98 年 11 月～99 年 5 月）観測

- ・共同利用 締め切り：98 年 7 月 1 日（水）JST15 時
 - ・長期共同利用 締め切り：98 年 6 月 5 日（金）JST15 時*
- （*印はすでに 98 年度公募終了）

国立天文台野辺山宇宙電波観測所 所長 井上 允

研究会・集会案内

国立天文台野辺山宇宙電波観測所「電波天文観測実習」の参加者の募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所は，45 m 電波望遠鏡・10 m ミリ波干渉計を用いて多数の星間分子の発見，原始惑星系ガス円盤の検出，銀河中心巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果を上げています。しかし一般には電波で行う天体観測とはどのようなものであるかはあまり知られていません。そこで，電波天文学の観測の実際を知ってもらうために，45 m 電波望

会務案内

内地留学奨学金の希望者を募集します

内地留学奨学金は、主に、学校等の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台の学芸員等やアマチュア天文家の人が、日本国内の大学や天文台などの研究機関で、天文学またはそれに関連する分野の研究に従事することを支援するための制度です。短期間、奨学金を受けながら、研究機関を利用し、そこの教官に指導してもらうことができます。定款（天文月報1997年5月号に綴じ込み）の内地留学奨学金に関する内規に基づいて運営されています。

例えば、これまでの奨学金受給者の研究テーマには次のようなものがありました。

- ・市街地における光害の実態と調査
- ・変光星の観測的研究
- ・天体写真のカラー処理とその効果
- ・天文教材開発のための調査研究
- ・19世紀の流星雨に関する文献の調査研究
- ・彗星の分光観測
- ・木星の赤外狭帯域撮像
- ・市販 CCD カメラの性能評価

また、受け入れ研究機関は国立天文台、大阪教育大学、京都大学などでした。研究したいが、どこの誰に指導してもらおうのが良いか分からないという希望者は、内地留学奨学金選考委員長がご相談に乗りますので、お気軽にお問い合わせください。

募集要項は次の通りです。応募用紙は日本天文学会事務室にあります（郵送可）。新人のために、申請書の書き方の例も用意しています。

応募資格：日本天文学会会員であること。
 留学期間：1999年1月から約1年のうちの希望期間。
 希望者と受け入れ研究機関と教官との相談で、学校教員なら夏休みの時期など、民間企業勤務の人なら何度か短期の休暇をとるなどで、指導を受ける期間を設けることが考えられます。

申し込み：応募申請書に必要事項を記入し、受け入れ教官の印をもらった上、「〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に申し込んでください。

応募締切：1998年9月16日(水)必着
 審査：当学会選考委員会（内規第5条）で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

支給額：25万円以下で、支給予定は1999年1月とします。
 人数：原則として1人、新人を歓迎します。

連絡先：美星天文台
 内地留学奨学金選考委員長 綾仁一哉

電話 0866-87-4222
 電子メール ayani@bao.go.jp

日本天文学会 1998 年春季年会報告

1998 年春季年会は3月16日(月)～3月18日(水)の3日間、東京都立大学の講義室の5会場を使って開催された。口頭(10分)、口頭(3分)+ポスター、による発表講演数はそれぞれ234、137であった。なおポストドライン講演は5件であった。今回の年会参加者は633名と盛況で、大橋氏を中心とする東京都立大学の方々の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々をお願いした。

会場	A	B	C	D	E
1 日目					
午前	尾中 敬	政井邦昭	中野武宣 川辺良平	市川伸一	鷹野敏明
午後	定金晃三	嶺重 慎	観山正見	太田耕司	家 正則
2 日目					
午前	松元亮治	山岡 均	亀谷 收	山田 亨	三好 真
午後	花岡庸一郎	野口邦男	富阪幸治	有本信雄	吉田龍生
3 日目					
午前	常田佐久	堂谷忠靖	松本敏雄	岡崎敦男	中本泰史
午後	末松芳法	中川貴雄	田中培生	田代 信	須藤 靖

〈記者会見〉

春季年会の前日午前11時から、東京都立大学で記者会見を行い、次の点について解説した。

★トピックス

- 1) 褐色矮星の誕生：分子雲における若い褐色矮星の発見
 田村 元秀 (国立天文台) 他 【関連講演：P17a】
- 2) 宇宙最強の超新星爆発の残骸の発見
 ー 銀河群“ステファンの五つ子”になにが起きたか? ー
 谷口 義明 (東北大理) 他 【関連講演：ポストドライン】
- 3) 赤外線銀河の織りなす宇宙大構造か?
 松原 英雄 (名大理) 他 【関連講演：U03a】

〈通常総会〉

平成10年春季年会における通常総会は、2日目午後4時半より開催された。前回同様、新定款によるきびしい定足数がクリアできるかどうか危ぶまれたが、事前における多くの正会員の葉書投票のおかげで、定足数は無事満たされた(詳しい数字は後述の総会報告を参照)。議事に先だって、この出席数の確認と、署名人の選出が行

なわれ、続いて天文学会が制定する各賞（天体発見賞、研究奨励賞、林忠四郎賞、欧文報告論文賞）の授与式が行われた。引き続き議事に入り、第1議案（平成9年度会務報告）と第2議案（平成9年度収支決算、監査報告）、第3議案（新評議員候補者）の承認が、若干の質疑応答ののちなされた。総会への出席正会員数は118名（葉書投票を含めた有効出席者数は最終的に374名）であった。

〈天文教育フォーラム〉

1日目午後4時から、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラム『「すばる」に期待する天文普及』が開催された。海部宣男、飯塚礼子、伊東昌市、大金要次郎氏らの報告のあと、多くの現状報告、意見交換が行われた。（詳しくは、天文月報6月号参照）

〈懇親会〉

2日目午後6時から、都立大学生協食堂を利用して行われ、約155名の参加者があった。財団法人五島プラネタリウム、(株)エイ・イー・エスからのご芳志もあり大変盛り上がった。

〈公開講演会〉

3月15日(日)午後2時より都立大学講堂で行った。講師および演題は「21世紀の観測天文学：私たちは宇宙を理解できるか？」谷口義明（東北大学・助教授）「宇宙をX線でのぞく」小山勝二（京都大学・教授）であった。

〈保育室〉

保育室はポスター会場の2階にある和室に設置された。3日間でのべ9人の子供の利用があった。シッターさんの派遣は(株)ファミリーサポートに依頼した。詳しい報告は学会のホームページにある。なお、天文学会と同様に保育室設置を考えている他学会員のために、設置についての情報をホームページで公開している。

(年会実行委員長：加藤万里子)

通常総会報告

1998年（平成10年）3月17日（火）16:30～18:00

於：東京都立大学（八王子）教養部230教室

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。事前投票総数は275、総会出席者数は118。出席者のうちで事前投票した19人は、事前投票の方を無効とした。したがって有効出席者総数は374で、定足数（正会員総数1335人の5分の1＝267）を満たすことを確認した。次に署名人として小平桂一氏、安藤裕康氏が選出された。続いて各賞の授与式が行われ、以下の方々にそれぞれの賞が授与された。

●天体発見賞：

天体発見賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、以下の9件5名に天体発見賞が贈呈されることが決定された。

小林隆男氏：小林彗星（p/1997 B 1）を発見
 宇都宮章吾氏：宇都宮彗星（c/1997 T 1）を発見
 申田麗樹氏：NGC2258に出現した超新星1997 Eの発見
 青木昌勝氏：NGC4691に出現した超新星1997 Xの発見
 NGC6060に出現した超新星1997ddの発見
 NGC3810に出現した超新星1997dqの発見
 NGC5012に出現した超新星1997egの発見
 NGC3963に出現した超新星1997eiの発見
 佐野康男氏：NGC4107に出現した超新星1997efの発見

●研究奨励賞：

研究奨励賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、研究奨励賞1件1名が決定された。

太田耕司氏：遠方銀河の観測的研究

●林忠四郎賞・欧文報告論文賞：

林忠四郎賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、林忠四郎賞1件1名、欧文報告論文賞1件2名が決定された。

○林忠四郎賞

牧野淳一郎氏：重力多体問題シミュレーションによる恒星系力学の研究

○欧文報告論文賞

久野成夫氏：Distribution and Dynamics of Molecular Gas in the Galaxy M51. III. Kinematics of Molecular Gas.(PASJ, vol. 49, 1997, pp. 279-306.)
 中井直正氏：同上

議事の経過および結果

1. 1997年度会務報告（第1号議案）がなされ、質疑応答ののち賛否を問い、賛成多数で承認された。
2. 1997年度収支決算報告および監査報告（第2号議案）がなされ、質疑応答ののち賛否を問い、賛成多数で承認された。
3. 新評議員候補者（第3号議案）が報告され、質疑応答ののち賛否を問い、賛成多数で承認された。
4. 奥田理事長より春季年会の公開講演会、および記者会見について報告があった。

(なお、議案の内容は第91巻3月号をご参照下さい。)

柴田一成（庶務理事）

日本天文学会 1998 年秋季年会の開催と講演の申し込みについて

秋季年会は 1998 年 10 月 1 日(木)から 3 日(土)までの 3 日間、山形大学にて開催します。

【講演の申し込み】

講演の申し込みは「〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、7 月 9 日(木)までに必着するよう規定の申込用紙(本号にはさみ込み)を用いてお送りください。

e-mail での投稿受付は、7 月 6 日(月)正午～7 月 10 日(金)正午までとします。非会員の方からの e-mail での予稿も受け付けます。e-mail での予稿の書き方、送り方およびフォーマットは tennet を通して連絡します。tennet から直接情報入手できない方は tennet 加入者にお聞きください。さらに、WWW にも掲載します。直接学会事務局へのお問い合わせにはお答えできません。郵送と e-mail との二重の申し込みは固くお断りします。

さらにプログラムを WWW 上に掲載します。e-mail 投稿による予稿本体も、プログラムと同様に WWW 上に掲載しますので、支障のある方は前もってお申し出下さい。

講演は「口頭発表(講演 10 分)」, 及び「口頭発表(3 分) + ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3 分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2 つ目以降の講演は「口頭発表(3 分) + ポスター発表」とします。

Post-deadline papers も受け付けます。これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、9 月 25 日(金)まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

講演分野の分類は以下の 15 通りです。

J. 位置天文学, K. 天体力学, L. 太陽系, M. 太陽, N. 恒星, P. 星形成, Q. 星間現象, R. 銀河, S. 活動銀河核, T. 銀河団, U. 宇宙論, V. 地上観測機器, W. 飛翔体観測機器, X. 情報処理, Y. 天文教育・その他

なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入ください(例: 恒星(内部振動))。

講演申し込み・発表に際しては特に次の事項を厳守してください。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
3. 口頭発表においては、オーバーヘッドプロジェク

ターを使用すること。

4. ビデオプロジェクターの使用(10 分講演のみ可能)を希望される方は年会申し込み用紙に○印をつけて下さい。
5. スライドの使用は原則として考えていませんが、どうしてもという方は、年会実行委員長(加藤万里子)まで前もって連絡してください。
6. 液晶プロジェクターの使用希望については、必ずしも対応できるかはわかりません。使用を希望されるかたは、極力早めに年会実行委員長まで問い合わせして下さい。
7. 郵送による申し込みの際、原稿をセロテープ、メンディングテープなどで張りつけることはせずに、必ず糊をお使いください。

なお、近年、講演のキャンセルが増えています。理由のいかんにかかわらず、これ以上キャンセルが増えると、年会の運営に支障をきたしますので、慎重にお申し込み下さい。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。非会員の方で講演を希望される方には、申し込みの際に入会をお薦めしております。

【年会出席旅費補助】

講演申し込み者で年会出席旅費の補助を希望される会員は、7 月 9 日(木)までに必着するよう日本天文学会に申し込んで下さい。ただし申し込みのできる人は、1998 年度会費納入済みの方で、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない正会員学生会費納入者に限ります。尚、旅費は年会会場にてお渡し致しますので印鑑をご持参下さい。年会終了後にはお渡しできません。

【参加費等の支払い方法】

講演の申し込みには講演登録料が必要です。ただし、会員の種別によらず、1 講演につき講演登録料が免除となります。

年会参加費	3,000 円(正会員(学生)は 2,000 円)
年会講演登録料	3,000 円
年会予稿集	2,000 円

- 1) 年会参加費及び年会講演登録料は年会会場でお支払いください。
- 2) 年会講演登録料は、講演を複数回申し込まれた方の、2 講演目からの 1 講演あたりの金額です。
- 3) 予稿集予約の葉書を学会へお送り頂いている方以外で、予稿集を購入希望の方は、会員番号と 1998 年秋季年会予稿集希望と明記の上、下記へご送金下さい。代金は 1 冊 2,000 円(含消費税、送料)です。

郵便振替は 0 0 1 6 0 - 1 - 1 3 5 9 5

社団法人 日本天文学会

【お問い合わせ】

年会中に集会のため会議室の利用を希望される方は、前もって山形大学 柴田晋平までご連絡下さい。

メールアドレス：shibata@kspica.kj.yamagata-u.ac.jp

電話番号：023-628-4552

ファックス：023-628-4567

【天文学会会期中の保育室設置のお知らせ】

秋季年会でも、会場内に保育室を設置する予定です。詳しい内容と申し込み手続きは、天文学会のWWWホームページ (http://www.tenmon.or.jp/meeting/) に掲示します。WWWがアクセスできない方は、実行委員長の加藤万里子まで、電子メール (mariko@educ.cc.keio.ac.jp) か FAX (03-5454-6815) で、ご連絡ください。

(年会実行委員長 加藤万里子)

●事務室だより●

☆今年度の会費未納の方は至急ご送金ください。

送金先 郵便振替 00160-1-13595

加入者名 社団法人 日本天文学会

定款改訂に伴い1997年より会計期間が1月から12月までとなっています。

正会員会費	18,000円
ク(学生)	13,000円(学生申請書必要、書式自由)
準会員会費	8,000円

☆住所変更

刊行物発送の関係上、毎月10日までに受け付けた分

は新住所へ発送致します。10日を過ぎますと次回発送分より新住所への発送となります。

☆移籍

用紙は学会事務所にありますのでご連絡下さい。

尚、正会員から準会員への移動は年度途中ではお受けできません。又、次年度より移籍をご希望の方は11月末日までに手続きをしてください。

☆退会

年度途中での退会は会費が未納の方は、既にお送りしてある刊行物の誌代を請求いたします。

天文月報 700円/冊

欧文報告 3,465円/冊

尚、TENNETに加入している方は、学会事務所とはべつにTENNET運用管理者へも退会届を提出して下さい。

TENNETのメールアドレスはtennet-request@tenmon.or.jpです。

☆口座引落

会費等の銀行口座自動引き落としをご希望の方は、学会事務所へご連絡下さい。所定の用紙をお送り致します。引き落としは、1月10日、5月10日、9月10日の年3回です。10日が金融機関の休日と重なった時は翌営業日又、既に申し込まれている方で指定口座の変更をご希望の方は再度申込書を提出して頂きますので、ご連絡ください。

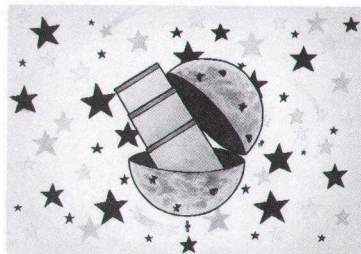
☆連絡先

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内 日本天文学会

TEL: 0422-31-1359 FAX: 0422-31-5487

E-Mail: jimmu@tenmon.or.jp



もっと光を、
和歌山県 小北純子

編集委員	末松芳法(編集長), 上野宗孝, 大橋正健, 小谷太郎, 辻本拓司, 野口邦男, 平野尚美, 宮坂正大		
平成10年6月20日	発行人	〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1	国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12	啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円)	発行人	〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1	国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359(事務室)	/ 0422-31-5488(月報・欧文編集)		FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	http://www.tenmon.or.jp		月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp